

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2250 号

Extra-Perigastric Extranodal Metastasis is a Significant Prognostic Factor in Node-Positive Gastric Cancer

胃癌外科切除標本における Extranodal Metastasis 陽性症例の臨床病理学的研究

登内 晶子 (とのうち あきこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

Extranodal metastasis (ENM) は、複数の癌腫において予後不良因子の一つであると報告される。胃癌外科切除標本において ENM 陽性症例の臨床病理学的特徴を解析し、予後因子としての意義を明らかにする事を目的として以下の検討を行った。2008 年～2009 年に、当科で R0 切除を施行された初発胃癌症例のうち、リンパ節転移陽性例を対象として、ENM の有無、ENM 陽性例を ENM 存在するリンパ節領域 (取扱い規約第 13 版) で分けて、胃周囲リンパ節領域の Perigastric ENM (P-ENM) と、それを越えて存在する Extra-Perigastric ENM (EP-ENM) に分けて、臨床病理学的因子、長期予後について後方視的に検討した。ENM 陽性率は 37% (51/139 例) であり、ENM 陽性例/陰性例についての比較検討では、ENM 陽性例で、腫瘍径が大きく、深い深達度の腫瘍が多い傾向を認めたが、リンパ節転移頻度や脈管侵襲については両群で有意差を認めなかった。5 年生存率は ENM 陰性例で 84%、陽性例で 45% であり有意に ENM 陽性例で予後不良という結果を示した。

また、ENM 陰性例、P-ENM 陽性例、EP-ENM 陽性例の 3 群で検討したところ、全生存期間について 5 年生存率は ENM 陰性例で 84%、P-ENM が 59%、EP-ENM では 0% と有意に予後不良であった。全症例において、全生存期間対する単変量解析の結果は腫瘍径、深達度、リンパ節転移、ENM 陽性が有意な予後因子として認められた。多変量解析では、ENM が独立した予後不良因子として認められた。ENM 陽性例において、全生存期間対する単変量解析、多変量解析の結果は EP-ENM 陽性のみが有意な予後因子として認められた。再発は ENM 陰性例と比較して P-ENM、EP-ENM 陽性症例では有意に再発率が高い傾向を認めたが、再発部位は一般的な胃癌と同様の傾向を認め、分類による差異は認めなかった。ENM、特に EP-ENM 陽性例の予後は極めて不良である。EP-ENM を認識することで、これらのハイリスク患者に対してより適切な治療選択を行えるようになる可能性がある。